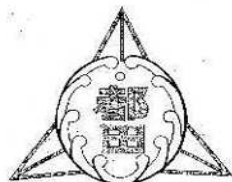


令和5年度
第2回学校運営協議会



令和5年6月21日(水)
浜松市立都田小学校

令和5年度 校内研修の概要

研修主題 夢に向かって 命を輝かせる子を育む

主体的・対話的で深い学びのある授業づくり

～キャリア教育の概念を根底にした教育活動の推進～

令和3年度は、総合・特活を核としたキャリア教育の年間指導計画を作成し、カリキュラム・マネジメントを基にしたキャリア教育の実践に取り組んだ。都田の目指す子供の姿とキャリア4つの力を関連させて、日々の学習がキャリア4つの力の中の、どの力と結び付くのかを板書等で意識させるよう取り組んだり、キャリア教育の年間指導計画とそれにかかわる実践の足跡が見える掲示作りをし、児童や保護者にもキャリア教育を通して力を高めていく過程を共通理解できるようにしたりした。これらの実践から、年間を見通し、より計画的に学習指導やキャリア教育の実践を積み重ねられたことが成果として挙げられる。

令和4年度は、それまでの取り組みに合わせて、「かかわり」をキーワードとした。この「かかわり」には、今の学びと自分の将来の**かかわり**、地域社会の「ひと・もの・こと」と自分の**かかわり**、学びと学びの**かかわり**の3つが挙げられる。これらに対して教師が、かかわりを意識し繰り返し語ること、「ふりかえり」の活動を大切にすることを実践した。また、年間指導計画の見直しとカリキュラム・マネジメントを基にした、キャリア教育の実践を通し、教師も児童も「かかわり」を意識しながら、具現化に迫っていった。また、教師と児童がキャリア教育について共通理解をし、実践に取り組んでいけるように、年度当初にキャリア教育のオリエンテーションを行った。全校で共通理解した後、学年ごとに発達段階や学習内容に合わせて、キャリア4つの力に合わせた具体的な目指す姿を理解したり、学習の見通しをもったりした。さらに、ICT機器の活用と充実を通して、主体的・対話的な深い学びの視点からの授業改善と教師力・授業力を高める実践をしてきた。

そして、令和5年度は、本校の学校教育目標である「夢に向かって 命を輝かせる子～河西訓導から学ぶ「命の尊厳」～」の実現を目指す。自分の夢や目標に向かって努力を続け、困難なことがあっても、仲間や地域の人とかかわり合いながら課題を解決していくことで、自分を少しずつ成長させていく子供、そして自他の命を大切に、仲間とともに生きる喜びを感じながら生き生きと自分らしさを発揮していく子供「命を輝かせる子」を育てるためには、キャリア教育の概念を根底にした教育活動の実践が必要不可欠である。

また、本校の児童の実態として、「計画を立てて学習に取り組む」力が課題となっている。校内研修においても、課題解決に向けた適切な計画を立て、課題に取り組む子供の育成を目指していきたい。それには、学習指導要領が目指す「新しい時代に必要となる資質能力の3つの柱」を踏まえ、子供たちの学びが内容を「主体的・対話的で深い学び」となるよう日々の授業づくりを実践していきたい。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることは、キャリア教育の視点からも求められていることであり、本校の児童の実態や教育目標ともつながるものである。

(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導改善の視点

- 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」の実現

- 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考えを手掛かりに考える等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」の実現
- 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解説策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」の実現
 - つまり、「主体的な学び」や「対話的な学び」が実現することで、学びの質が高まり、「深い学び」が実現していく。

(2) 本年度の重点

令和5年度、校内研修・学習指導として取り組みたい手立ては、以下の9点が挙げられる。太字→本年度の重点 () →R4年度の取り組みを継続

- **生活に即した必要感のある課題提示**
- **課題解決のための方法を選択し、見通しを持つ学習計画**
- **課題に対する考えの変容を見取る振り返り（自己の成長を実感）**
 - (・既習事項や解決方法の選択を生かした主体的な学びの工夫)
 - (・付けたい力と学びの見通しを共有するキャリア年計の活用)
- 必要感のある聞く、伝える活動の工夫
- 自分の考えと比べながら聞き、自分の考えに生かす対話的な学び
- **キャリアパスポートの活用**
 - (・学びを未来につなぐ一言)

その中でも、令和5年度は、「主体的な学び」を重点として取り組んでいくことで、「深い学び」の実現に迫りたい。

- 1学ぶことに興味や関心を持ち、2自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、3・4自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」の実現
- 1 **生活に即した必要感のある課題設定** 教師と児童が必要感や有用感がある課題やゴールの設定をする
 - 2 **課題解決のための方法を選択し、見通しを持つ学習計画**
 - 3 **課題に対する考えの変容を見取る振り返り（自己の成長を実感）**
 - 主体的＝PDCAのサイクルを回して学習していく→振り返りが必要
 - 分かったこと、分からなかったこと（課題）、友達の意見を聞いて変わったこと（変容、多面的な見方）を見付ける、これからの学習や生活と結び付けてやってみたいことや考えたこと
 - 4 **キャリアパスポートの活用（教師が対話的に関わる 面談での活用）**
 - 1学期の面談 児童・保護者・教師でキャリアパスポートを使って、成長を認める
 - 3学期のふりかえり 児童・保護者でキャリアパスポートを使って、成長を認める（保護者はメッセージ）

R5 校内研修の具体的内容

- ① キャリア教育のオリエンテーション
4月20日（木）に全校でキャリア教育のオリエンテーションを行う。
その後、各学級で発達段階や授業内容に合わせて、話をする。
- ② キャリア教育年間指導の計画と見直し
R4年度作成の年間指導計画をもとに、R5年度版の年計を適宜修正する。（4月～3月）
※研修2
- ③ 子どもの実態を踏まえ、学期ごとに1つの核となる行事・総合（生活科）の単元を決める。核となる行事・総合（生活科）とつながる教科や単元を洗い出し、学年の実態と合わせながら、どの教科を通してどの力を特に伸ばしていきたいかを考え、4つの力のどれが関連しているか見出す。教科の指定はしない。（常に、年計のつながりを意識し、年計を更新していく）
- ④ 研究授業を、1学期に3人、2学期に3人行う。1学期の研究授業について、研修3で検討する。2学期の研究授業について、夏の研修で検討する。
- ⑤ 目指すは、1、2学期に計2つの実践。研究授業をやらなくても、今後につなげるよう年計に残す。最後に各学年の実践を6学年分まとめると、1年間の研修の成果が残り、これが積み重なると、「都田小のキャリア教育」として出来上がってくると考えられる。教室の背面掲示の「だいすき都田」の場所に、年計を中心として、総合・生活科、他の教科、特活等の実践の様子を写真で紹介し、児童や保護者とも学びの足跡が確認できるようにする。（学期ごとに更新する）
- ⑥ 指導案には、R5年度の重点である「主体的な学び」を実現するための手立てを、単元計画及び本時の支援等に記載する。
- ⑦ 研究授業は、年間1回は行う。細案を書き、じっくり教材研究を行う。指導課訪問の一般授業は、略案を書く。（R3、4年度は、中心授業のみ）
- ⑧ R6（第3次浜松市教育総合計画の最終年）に向けて、ICT活用指導力向上をねらいとした研修を進める。
 - ・研究授業の振り返りで、ジャムボードを使用する。
 - ・夏の研修で、実践例を紹介し合い、ICTの効果的な活用方法について研修
- ⑨ Pテスト……年間4回 事前に学年だより等でテスト範囲を伝え、家庭学習による自主学習を促す。合格は80点。再試は、各学級で行う。
 - ・国語：漢字
 - ・算数：計算中心※詳しくは、「教育課程18-6」 参照
- ⑩ 家庭学習……学習の仕方を教える。
新学期に宿題の仕方をまなBookを使って指導する時間を取る。
家庭学習カードを使って、1～3年生は、主に学習時間の計画、4～6年生は、主に学習内容の計画ができるように支援する。
保護者にも見届けをお願いする必要がある。
※詳しくは、「教育課程18-4」 参照
- ⑪ まなBookの扱い
 - 児童・家庭へは、家庭学習欄のみ配布
 - 教師用として、指導へ生かす
 - データを「きょうざい」ホルダーへ入れておき、指導へ生かす。

「キャリアの4つの力」を育むための目指す子供の姿

キャリア 4つの力		考える力	チャレンジする力	聞く力・伝える力	つなげる力
キャリア教育の能力		課題対応能力	自己理解・ 自己管理能力	人間関係形成・ 社会形成能力	キャリア プランニング能力
目指す子どもの姿	卒業時の姿	学んだことを生かして課題を解決しようとしたり、解決に必要な材料を収集し、その内容を選択・判断して活用したりする。	自分の良さに気付き、目標に向かって努力を続けたり、目標を見直し修正したりする。	友達と進んで関わり、自分の考えと比べ、良さを見つけ自分の考えに生かしたり、多様な考えの納得点を見つけたりする。	今の学びと将来、地域社会と自分、学びと学びのつながりを意識したり、学びを振り返り、自身の成長につなげたりする。
	低学年	めあてをもって学習に取り組む。	めあてに向かって努力をする。	・相手の話を最後まで聞く。 ・自分の考えや気持ちを伝える。	自分の学びを振り返る。
	中学年	学んだことを生かして学習に取り組む。	めあてに向かって努力を続ける。	・相手の話を自分の考えと比べながら聞く。 ・自分の考えを相手の意見とつなげながら伝える。	自分の学びを振り返り、生活と結び付ける。
	高学年	学んだことを生かして解決の方法を選択・判断し、学習に取り組む。	目標に向かって努力を続ける。	自分と友達の考えを比べ、良さを見つけて自分の考えに生かす。	学んだことを振り返って、自分の成長につなげようとする。
具体的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に即した必要感のある課題提示 ・課題解決のための方法を選択し、見通しを持つ学習計画 ・課題に対する考えの変容を見取る振り返り（自己の成長を実感） ・既習事項や解決方法の選択を生かした主体的な学びの工夫 ・付けたい力と学びの見通しを共有するキャリア年計の活用 ・必要感のある聞く、伝える活動の工夫 ・自分の考えと比べながら聞き、自分の考えに生かす対話的な学び ・教師、子供、保護者で共有するキャリア・パスポート ・学びを未来につなげる一言 ・温かな人間関係作り（グループエンカウンター、集団遊び） ・自己肯定感を高める活動 ・居心地の良い集団作り 				

(様式2)

令和5年度 学校運営協議会自己評価表
委員名 ()

<本年度の目標>

・協議会が学校を評価する立場ではなく、共につくっていく側面が強調できるようにする。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

<評価項目4> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)